

色摩力夫・小室直樹著「人にはなぜ教育が必要か」総合法令 199年11月25日刊を読む

開倫塾

塾長 林明夫

1. 「21世紀を生き抜く」

- 社会的な使命感を持つこと。
- 自分の個人的な利害からすれば何もプラスにならないことでも、自分の属する社会のためには、せざるを得ないと思う何かを、自発的に行うこと。
- 断ろうと思えば、簡単に断ることのできる社会的責務を、つまり、余計な重みを、百も承知で敢然と引き受けること。
- 社会の健全性は、そのようなエリートが少なからずいるのか、そのような人に対して、一般大衆が敬意を払っているのかではかられます。もしそうであれば、通常の、健全な社会でしょう。
- ところが、もしその志をもつ人が少なく、しかも、一般大衆がそれをキザな奴として排斥しているならば、それは紛れもなく、病的な社会です。
- 志ある奇抜な人々を激励していきましょう。
- 重厚でしかも優美な新しい日本文化をそうぞするチャンスが生まれるかもしれないのです。
- 個人の幸せ以外のこと、家族の幸せ以外のこと、社会全体のために役に立とうということにも、意識を。」

2. 「プロの教師の養成」

- 志を養うこと、プラス、技術を教えること、
- 研究者としての能力と、教育者としての能力は、全く異なるもの。
- 人にものを教えるには、大変高度な技術が必要。
- 理念と目的。
- 人格識見ともに高く、生徒や保護者から尊敬されている教師。
- プライドと志

3. 「議論の教育」

- ことばは相手に達しなければ意味がない。相手を説得できなければ徒勞。
- 立場の違った人とコミュニケーションする必要。
- 討論、パブリックスピーチの教育を。

<コメント>

政治学者・経済学者の小室直樹先生と、外交官の色摩力夫先生の共著。「人にはなぜ教育は必要か」は、読み返えすごとに、新しい発見があります。是非ご一読ください。

2024年12月25日（水）